



もくじ

◆特集 教育センター研究調査事業	2~3
・生きる力を育む教育研究	
◆指導と評価シリーズ	4~9
・小学校音楽『豊かな表現力の育成を目指して』	
・中学校数学『学習意欲を高める授業の工夫』	
・高校化学『陽イオン交換樹脂の合成と関連実験の教材化』	
◆佐賀再発見シリーズ	10
・佐賀平野のクリークと生物	
◆校内研究 ~我が校の取組~	11
・中原町立中原小学校	
・鳥栖市立鳥栖中学校	
◆教育論文入賞者の紹介	11
◆教育相談インフォメーション	12

《巻頭言》

果実より種子を

所長 江頭 賢藏



新緑が目に染みる5月。木々の葉は柔らかな若緑から濃さを増して落ち着いた量感を醸し出し、春の花とは違った力強さとエネルギーに満ちている。

「ものの芽の力に雨の加はりぬ」 稲畑 汀子

大岡信氏の「折々のうた」にとりあげられた、稲畑汀子氏の「障子明り」に所収されている一句に目がとまる。教育は「自分探しの旅」を扶ける営みであるとする中教審答申の表現に、この句を重ね合わせてみる。主体的に伸びようとする子供の自力、陰から扶ける親や教師の的確な指導を雨の他力と解釈したい。

NHKの番組「生きもの地球紀行」の中に、サバンナの狩人といわれるチータの子育ての姿がカメラに収められていた。母親は、生後しばらくの間、捕獲した獣肉を子に与え、食欲を満足させている。しかし、4か月程を過ぎると、子供がどんなにねだっても一片の肉も与えず、一人で旨そうに食事をする。子供の食欲は高まるばかり。無慈悲とも思える光景である。母親は、意識的に子供が自ら狩りできる能力を学習させる場面づくりをしているのだ。

弱肉強食の世界で、子供に「生きる力」を教える親心であろう。

我々の世界では、どうであろうか。ややもすると、

子供に迎合し、安易に「物や金」を与え過ぎていないだろうか。過保護、過干渉、そして子供の体験不足という活字が頭を過る。指導すべき大人自身が子供の学ぼうとする力を spoilしているのでは。眞の子育てのあり様をチータの母親に見た。

ルソーは、名著エミールの中で「子供を駄目にする最良の方法は、何でも与えることだ。」と述べている。

手間暇を省き、大人の論理で「果実」を与える教育から、時間を要するが「種子」を与える教育へと、その理念を転換したい。土を耕し、種子を蒔き、肥料を施し、額に汗して自分の手で多くの果実を収穫する術を身に付けさせることが大切。

今日、わが国は物が溢れ、心が貧しい時代。青少年の問題行動が多発している。子供との対話や理解を深め、「悪いことは悪い」と叱り、「ならぬことはならぬ」と毅然とした態度で接し、本気で子供に向かい合う気構えが必要。次代を担う子を真に育てるここと、精神の貧困から子供を救うことは大人の責務である。

梅雨前線が北上中。外では赤紫色の紫陽花が雨の力を待っている。

//生きる力を育む教育研究

教育センターは、先生方の研修の場として「研修講座」を開設・運営するだけでなく、各学校での教育実践を「教育論文」として広く公募し、研究発表会や論文集として県内の各学校にその研究成果を紹介しています。

また、今日的な教育問題や将来を見通しての教育課題等について、所員と各学校の先生方が協力をしながら研究を進める「研究調査事業」も行い、県下の教育推進に寄与しています。

特に、「研究調査事業」では、『生きる力を育む教育研究』の視点に立った教育研究に取り組んでいます。今回は「研究調査事業」の概要について紹介します。

表「平成10年度研究調査事業組織」

1 研究調査事業の概要

(1) 「生きる力」の育成と研究調査事業

これからの中等教育の在り方として、第15期中央教育審議会第一次答申では、変化の激しい時代を生き抜くための「生きる力」の育成が叫ばれていますが、「生きる力」には次の三つの要素があります。

ア 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力

イ 自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思い遣る心や感動する心などの豊かな人間性

ウ たくましく生きるために健康や体力

研究調査事業でも「生きる力」を育成する教育を探るため、「心の教育」「個性を生かす教育」「社会の変化に対応する教育」などの研究に取り組んでいます。

(2) 組織

研究調査事業は、右表に示すような組織で進めていますが、児童生徒の実態把握や検証授業等を実施するため、1委員会あたり2名~4名の先生方に研究委員として協力をいただいている。

(3) 研究成果の紹介

研究の内容や成果については、「教育センター研究発表会」や『研究紀要』等で紹介しています。

	研究部会名 (部会テーマ)	研究委員会	研究期間	年数
特別研究	心の教育	小学校道徳	H10~H11	2
		中学校道徳		
		小学校特別活動		
		中学校特別活動		
共同研究	個を生かす教育	小学校国語	H10~H11	2
		小学校算数		
		中学校国語		
		中学校数学		
	指導と評価	中学校技術・家庭	H 9 ~ H 10	2
		高等学校生物	H 9 ~ H 10	2
	理科教育	高等学校地学		
		高校地歴・公民	H 9 ~ H 10	2
	教材開発	高等学校英語		
		教育相談	H10~H11	2
研究	教育相談	学校適応指導		
		特殊教育	H 9 ~ H 10	2
	国際化に対応する教育	小学校社会	H 9 ~ H 10	2
		中学校英語		
	情報化に対応する教育	情報システム利用	H10	1
		ネットワーク利用		
	クロス・カリキュラム	小学校生活科	H 8 ~ H 10	3
		小学校国語		
		小学校理科		
		小学校特別活動		
	産業教育	高等学校工業	H10	1
		高等学校農業		
個別研究	○中学校（社会・理科・音楽・美術） ○高等学校（国語Ⅰ・国語Ⅱ・数学・物理・化学） ・平成11年度に共同研究に移行し、11年度の完結とする。			

2 研究部会の紹介

今年度設置している11研究部会の中から、次の2つの部会について概要を紹介します。

〔研究の目的〕「主な研究内容」については紙面の都合上、一部要約しています)

心の教育部会

◇ 研究部会のテーマ

豊かな人間性の育成を目指す心の教育の調査研究

◇ 研究の目的

【道徳】

児童生徒の発達段階における心の育ち（道徳性の発達）と児童生徒を取り巻く背景（学校・家庭教育）の実態を明らかにし、豊かな心を育む道徳教育の在り方を探る。

【特別活動】

特別活動の実施状況や児童生徒の意識等を調査・分析し、諸課題や問題点を把握すると共に、児童生徒の社会性や協調性を高めるための方策を探り、指導方法の工夫改善を探る。

◇ 主な研究内容

○ 児童生徒の心の育ちと児童生徒を取り巻く背景の実態を明らかにするためのアンケート調査項目を策定する。

○ アンケート結果の分析・考察を基に児童生徒が豊かな心を育むための道徳教育の在り方を探るとともに、道徳の時間の授業改善を図る。

○ 児童生徒の社会性・協調性の育ちの実態を明らかにするための、アンケート調査項目を策定する。

○ アンケート調査の分析・考察を基に、体験活動の在り方と指導方法の工夫改善を図る。

調査結果を基に、道徳・特別活動それぞれの特質を生かしながら関連づけ、双方の学習効果を高めることを通して、豊かな心を育むための心の教育の在り方を提言する。

クロス・カリキュラム部会

◇ 研究部会のテーマ

生きる力をはぐくむクロス・カリキュラムの研究
—小学校における環境教育の実践を通して—

◇ 研究の目的

小学校生活・国語・理科・特別活動を対象にしたクロス・カリキュラムによる環境教育の実践を通して、よりよい環境づくりや環境保全に関する望ましい態度を育てると共に、教科・領域等の有機的関連を図ったクロス・カリキュラムの指導の在り方を探る。

◇ 主な研究内容

○ クロス・カリキュラムと環境教育に関する先行研究や事例研究の収集と検討を行う。
○ クロス・カリキュラムによる環境教育の指導計画と指導方法を開発する。
○ 検証授業を通して、指導の有効性を考察する。

豊かな表現力の育成をめざして

一多様な場を取り入れたチーム・ティーチングの研究を通して

所員 貞島 紀代子



1. はじめに

音楽の喜びは、自分が感じたものを歌や楽器で演奏していく過程の中から生まれてきます。自分たちの音を探している子供たちの姿は、まるで宝物を探しているかのように生き生きとしています。音楽の魅力は、ここにあるようです。

そこで、豊かな表現力の育成を図るため、チーム・ティーチングによる指導の在り方を、多様な表現活動の場を通して紹介します。

2. 表現力をはぐくむ4つのポイント

表現の能力は、子供たちが自ら考え、判断しながら、自分たちの心に合った音や音楽を創り出していく力です。すなわち、この能力をはぐくんでいけば、今まで以上に自己表現活動が生き生きとしてきます。

ポイント ↗

創造的な学習活動を積極的に取り入れる。

(例) 森の音、宇宙の音楽、などの題材を数多く取り入れる。

ポイント ↗ ↗

子供一人一人の思いや願いを実現できるような広がりのある学習内容を用意する。

(例) 独奏や独唱から小アンサンブルへ、更には合唱奏へつなげていく。また、表現と鑑賞の領域を一つにした指導内容を取り入れる。

ポイント ↗ ↗ ↗

子供の個性を生かす指導方法や学習形態を工夫する。

(例) 個別指導、グループ学習、コーナー学習を随時取り入れ、常に新しい発見ができるような学習内容を用意する。

ポイント ↗ ↗ ↗

自己評価活動によって、自己認識や他者認識を深めさせ、表現に生かすことができるよう支援する。



3. 指導の実際 (指導学年: 6年)

題材: 「歌声や楽器のひびき合いを楽しもう」

多様な場をT1でどのように生かすか。

本研究の中では、子供たちの個性的な表現活動を重視した、いろいろな場を設定した。

(1) 導入としての場の設定

①主旋律や副旋律に分かれて、T1(担任) T2(専科)がそれぞれのグループの指導を行う。

	T1の指導	学習活動	T2の指導
導入	○前時を思い出させ、ハーモニーを感じながら歌唱させる。 響き合う声を友達とつくりだし、歌い方を工夫しよう。	1「星空はいつも」を歌唱する。 ○霧聞気をつくりながら伴奏する。	
展開	○T2と二重唱をし、美しく響き合う歌声を感じ取らせる。 ○児童の发声の様子を観察し、考慮すべき点を把握する。	2教師の演奏を聞く。 3発声について知る。 ・構え方 ・呼吸の仕方 ・響きのある声づくり	○T1と二重唱をし、子供たちの学習意欲を高める。 ○歌の魅力を語り、美しく響く声は、からだ全体の動きの中から生まれてくることを感じとらせる。
パート	○自分に合った課題がもてるように助言する。	4課題をもって、パート別に練習する。	○各コーナーでの遊び方の指示をし、コーナー学習ができるように導く。
まとめ	T1の指導 主旋律のコーナー	T2の指導 副旋律のコーナー	

	T1の指導	学習活動	T2の指導
②	○変声期の児童を考慮しながら、主にT1が担当する。 ○響きのある歌声を意識しながら、音程、リズム等に注意して歌えるようにする。	5全員で歌詞唱をする	○フレーズを感じ取らせながら、伴奏する。
③	○発声の方法を意識させながら全体を指揮する。 ○全体の評価を受け、次時の学習課題を伝える。	6次時の学習内容を知る。	○本時の指導目標が達成できたかを確認する。

②テーマに分かれて、T1、T2はその生かし方について助言を行う。

T1の指導 美しい輝きのコーナー	T2の指導 行進曲のコーナー
○きらきら輝いている様子が曲の中に反映されるように助言する。	○行進曲の速さやイメージを大切にして表現させる。
○テーマにふさわしい(リズム・メロディー・強弱・調など)を考えさせる。 ○グループの一人一人が協力して活動できるように配慮する。	

(2) 発展的な場の設定

①創造的な表現活動においては、教師の特性を生かした指導を行う。

T1の指導 楽器アレンジのコーナー	T2の指導 コーラスアレンジのコーナー
1 出だしと終わり 2 変化する所 3 曲の山 4 重要な言葉・フレーズ	
○例を示しながら助言していく。 ○教師の演奏を聴かせながら、進める。 ○お互いに聴き比べながらアンサンブルを工夫させていく。	

②歌声や音を重ねていき、一つの音楽を創る全体指導の中では、T1、T2の役割を確認して行う。

T1の指導	T2の指導
○発声の方法を意識させ、ハーモニーの美しさを引き出すことができるよう留意し、全体を指揮する。	○フレーズ感を感じ取らせながら、伴奏をする。 曲想を示しながら合唱を支える。

③積極的に楽しんで表現活動ができるよう、心理的な面から支援を行う。

T1・T2の指導 (お試しコーナー)
○それぞれのコーナーで学んだことを生かして、ペアやグループで発表ができるように導く。



写真1 「リーダーを中心にアンサンブルを試みている子供たち」

4 子供の評価活動の結果から

継続的な“学習確認カード”的記入により、下図のような結果が得られた。図より明らかのように、回数を重ねるごとに「十分達成できた」と感じる子供が増えていき、TTによる5回目の授業では、ほとんどの子供が意欲的に音楽の授業に取り組むことができたことがうかがえます。

□5(十分達成できた) ■4(まあまあ達成できた) □3(ふつう)

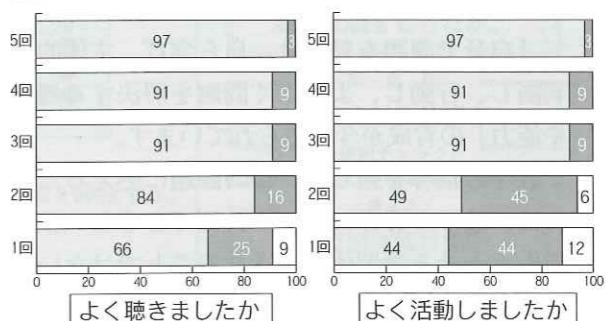


図1 「学習確認カードの集計結果」

5 本研究の成果から

複数の教師で指導に当たると、多様な場を表現課題に合わせて段階的に与えていくことが容易になります。また、子供たちは合奏や合唱を通じて、全体の中で響いているという満足感を味わうことができるようになりました。

更に、継続的な評価活動を取り入れることによって、次の学習課題がはっきり見えるようになり、結果として豊かな表現力をはぐくむことができたと思われます。

6 今後の展望

新学力観のねらいでもある個に応じた指導をこれからも一層深めていくことが肝要です。

そのためには、子供一人一人に成就感をもたらすことができるような指導方法を取り入れていくことが望まれます。

また、創造的な学習活動を充実することは、音楽科の大きな課題です。すなわち、これから先の音楽教育においては「創る音楽」がますます重要視されつつあります。

そこで、このことに柔軟に対応していくためには、指導形態を工夫し、学習過程の中に多様な表現活動の場を積極的に取り入れていくことが必要です。こういった学習活動を通して、創造的な自己表現活動が深まっていき、子供たちは、自分の音楽の世界を少しずつ広げていきます。

子供たちを響かせるための手立てを工夫していくことが、生きた音楽を創る営みです。

陽イオン交換樹脂の合成と 関連実験の教材化

所員 嘉村 敦



1 はじめに

いくつかの重要な化学的要素を含み、教材として広く利用可能なイオン交換樹脂の研究を行った。

2 研究内容

(1) イオンの交換樹脂の合成

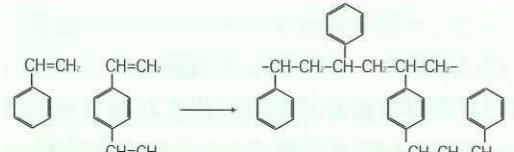
・モノマーの精製

市販のスチレンとジビニルベンゼンは重合禁止剤として4-tert-ブチルピロカテコールを含むので、減圧蒸留によって精製する。

表1 精製条件

モノマー	沸点	条件
スチレン	145.2°C	25mmHg下約45.5°Cで蒸留
ジビニルベンゼン	52°C (3mmHg)	21mmHg下68~74°Cで蒸留

・ゲルの合成



精製したスチレンとジビニルベンゼンをモノマーとして、ジビニルベンゼン含有量5%のゲルを合成する。図1の装置を用いて懸濁重合法で行う。

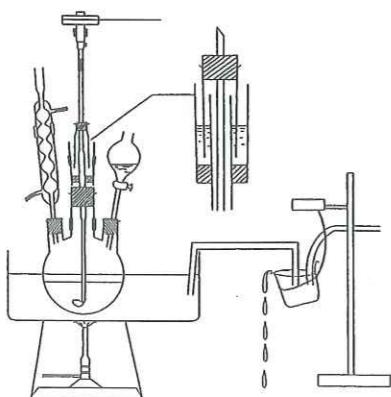


図1 還流攪拌装置と恒温槽

実験操作

- 500mlビーカー中で、水250mlにゼラチン1.5gを加熱しながら溶かし、分散媒をつくる。

② ①の分散媒を500ml三口フラスコに移し、還流攪拌装置にセットする。一方、スチレン10gにジビニルベンゼン0.5gを加え、さらに過酸化ベンゾイル0.1gを溶かす。

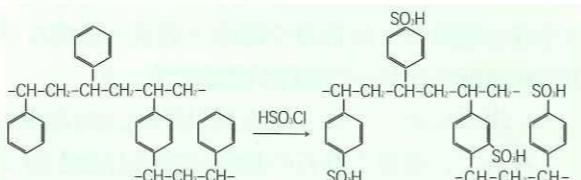
③ ②で調製したモノマー溶液を滴下漏斗に移し、三口フラスコにセットして、攪拌しながら全体に分散するように徐々に滴下する。

④ 50°C程度の湯浴をセットし、約20分で90°Cに昇温し一定に保つ。90°Cで約4時間攪拌しながら反応させる。

⑤ 1時間ごとにサンプリングする。約2時間でゲル粒子は水に沈むようになる。

⑥ 4時間程度経過したら加熱を止めて湯浴を外す。攪拌したまま常温付近まで放冷する。その後、1000mlビーカーに移し、デカンテーションを繰り返して水洗し、さらに吸引ろ過して水洗する。その後、#30程度のメッシュを通して粒度をそろえる。風乾もしくは50°C以下で恒温乾燥し、さらに減圧乾燥を行う。

・ゲルのスルホン化



実験操作

- 200mlコニカルビーカーに、乾燥したゲル7.5gを取り、1,1,2,2-テトラクロロエタン15gを加え、湯浴で60°Cに約30分保って膨潤させる。
- ドラフト中で、攪拌しながら、滴下漏斗を用いてクロロスルホン酸37.5gを徐々に加える。
- 常温で時々攪拌しながら約1時間反応させる。
- 1時間程経過したら、塩化水素ガスが発生しなくなるまで、冰酢酸を徐々に加えて攪拌する。
- 1000mlビーカーを用い、多量の水中に移す。放置すると、ゲルおよび1,1,2,2-テトラクロロエタンは底に沈む。デカンテーションして、上澄み液は水酸化ナトリウム(固体)を加えて中和し

てから廃棄する。このようにして得られたゲルを吸引ろ過する。ろ過廃液は1,1,2,2-テトラクロロエタンが底に沈むので、大きなビーカー等に移し水をほとんど蒸発させた後、廃液用ポリ容器に廃棄する。また、得られたゲルをアセトンで洗い、吸引ろ過して1,1,2,2-テトラクロロエタンを除く。アセトンをほとんど蒸発させた後、廃液用ポリ容器に廃棄する。

⑥ 水を加えて水洗した後、1mol/l水酸化ナトリウム水溶液中で約1時間煮沸し、スルホクロリド基を完全にスルホン酸ソーダに変える。このとき、攪拌し続けなければ突沸する。

⑦ 水洗、吸引ろ過を行う。得られたゲルを風乾または50°C以下で乾燥した後、減圧乾燥する。

(2) 合成陽イオン交換樹脂を使用した実験

・イオン交換能の検証と濃度決定(定量実験)

実験操作

- 0.100mol/l塩化ナトリウム水溶液を調製する。
- 合成したNa型陽イオン交換樹脂5gを100mlビーカー中で2mol/l塩酸に浸して膨潤させる。
- 25mlピュレットをカラムとして使用する。少量の脱脂綿を詰めてから少量の2mol/l塩酸を入れ、樹脂をピペットを使って充填する。
- 樹脂を充填後、2mol/l塩酸を流し、その後蒸留水を流出液が中性になるまで十分に流す(20~30ml程度、1~2ml/分)。pH試験紙を使う。

⑤ 0.100mol/l塩化ナトリウム水溶液10.0mlをホールピペットを使って流し(1~2ml/分)、さらに蒸留水を流す(20~30ml程度、1~2ml/分)。

⑥ 流出液をコニカルビーカーに取り、これを0.100mol/lシウ酸標準溶液で濃度を決定した水酸化ナトリウム水溶液で中和滴定する。指示薬にはフェノールフタインを用いる。

実験結果及び考察

0.100mol/lシウ酸標準溶液を調製し、10.0mlを正確に取って、水酸化ナトリウム水溶液の濃度を測定したところ0.0984mol/lであった。

この水酸化ナトリウム水溶液を用いて流出液を滴定したところ、滴定値は10.2mlであった。

したがって、流出したHClのmol数は

$$0.0984 \times \frac{10.2}{1000} = 1.004 \times 10^{-3} \text{ mol}$$

NaCl 1.00×10^{-3} molに対しHCl 1.004×10^{-3} mol生成したことになり、誤差は1%以下である。

また、以上のことから、同様の実験で濃度未知の塩溶液の濃度を決定することができる。

・金属イオン(Cu^{2+} , Cd^{2+})の分離(定性実験)

実験操作

- 硫酸銅(II)、硫酸カドミウムの各0.100mol/lの溶液を調製する。
- 各々を1mlずつ取って混合し、前記実験と同じに、H型にした陽イオン交換樹脂に流す。
- 選択的に Cd^{2+} を流出させるため、0.5mol/l塩酸を流す。そのとき、三角フラスコを用いて100mlずつ流出液を取る。
- 流出液に硫化ナトリウム水溶液を少量加えて Cd^{2+} の確認を行う。CdSの黄色沈殿で確認する。
- 樹脂に吸着している Cu^{2+} を流出させるため、2mol/l塩酸を流す。 Cu^{2+} が流出すると流出液は薄い青色を呈し、これに濃アンモニア水を加えるとテトラアンミン銅(II)イオンの生成により青色が濃くなる。

実験結果及び考察

Cu^{2+} の吸着バンドは0.5mol/l塩酸では少しだけ移動するが、 Cd^{2+} は $[\text{CdCl}_4]^{2-}$ 等の錯イオンを形成して吸着されにくいので選択的に流出、分離される。また、 Cu^{2+} の吸着バンドにより、イオン交換樹脂の交換容量を視覚的に捉えることができた。さらに、2mol/l塩酸を流すことにより、イオン交換が進む様子を視覚的に捉えることができた。

3 まとめ

合成過程については事前に撮ったビデオを併用するなどして3時間の検証授業を行った。

その結果、これらの一連の実験は、教材として次のような化学的要素を含むと考えられる。

- 有機高分子合成の基本を学ぶことができる。
- イオン交換について詳しく、また視覚的に捉えながら学ぶことができる。
- 酸・塩基の基本を確認し、中和滴定を通して定量実験について学ぶことができる。
- 金属イオンの分離を通して、カラムクロマトグラフィーの基本を学ぶことができる。

以上のように、実験を伴わない授業では得難い多くの内容を、同一の教材に含むことによる効果が期待できる。

佐賀平野のクリークと生物

所員 上赤 博文



写真① 中地江川のアサザ（神埼町、千代田町）

佐賀平野には全長2600kmのクリークが縦横に走っています。このクリークには多くの水生植物が生育し、土手にはヤナギ類、エノキ、ムクノキなどが植えられ、また、昆虫、野鳥、淡水魚なども多く、独特的な生態系が形成されています。

今から30年ほど前までは、クリークは地域の生活の中に完全にとけ込んでいました。農業用水としてはもちろん、飲料、炊事、洗濯などの生活用水としても利用され、クリークの水は農民の血液と例えられるほど大切に管理されていました。収穫を祝う秋祭りのあと、クリークの水は落とされ（堀干し）、そこに住んでいる魚が捕獲されて、正月の貴重なタンパク源になっていました。春先には再び水が落とされて、クリークの底にたまたま泥が田んぼに上げられ（ごみくい）、肥料として利用されていました。この作業は大変きつい労働でしたが、クリークの貯水量を維持し、また田んぼの地力を保つためには不可欠の行事でした。初夏になり田んぼに水が張られると、ドジョウ、ナマズ、ゲンゴロウ、タガメ、トノサマガエル、タニシなど、水田には実に多様な生物が息づいていました。農業によって形成された人為的環境が、多くの生物に快適な生活環境を与えており、人間の生活と生物の良好な関係がありました。それは自然保護の今日的キーワードである里山的自然といえるものでした。

しかし、時代が変わり各家庭に水道が引かれると、クリークの水は生活用水として利用され

ことがなくなり、生活水準の向上とともにタンパク源としての需要もなくなりました。農業にも近代化の波がおとずれ、大型機械が導入されました。そうなると、昔ながらの曲がりくねったクリークは農家を苦しめる存在となり、折しも全国的に始まった圃場整備により、佐賀平野もその姿を劇的に変えていきました。直線化された大形クリークが縦横に走り、昔の面影は圃場整備が入れなかった集落の近くに点在するだけになっています。農業の近代化とともに、化学肥料、殺虫剤、除草剤が大量に使用され、各家庭からは生活雑排水が流れ込み、水辺環境は急激に悪化していきました。今日、クリークの大部分は、ヘドロがたまりメタンガスの泡をまき散らしています。

このように佐賀平野の水辺環境は悪化していますが、それでも今日なおアサザ（写真①）、ヒシモドキ、オニバス、デンジソウ（写真②）、トチカガミ、サンショウモ、ヒメコウホネ、ミズワラビなどの全国的にも貴重な植物が局所的に生育しています。また、国の法律である「種の保存法」で厳密に保護されているベッコウトンボをはじめとする63種のトンボ類、そしてニッポンバラタナゴ、アリアケギバチ、ヤマノカミ、オヤニラミなどの絶滅の危機にある淡水魚類も生息しています。淡水魚の中には、有明海に注ぐ河川だけにしか知られていないものもあります。是非この機会に『佐賀平野のクリークの生物』に注目して下さい。



写真② デンジソウ（大和町：県内唯一）

校内研究

～我が校の取組～

交流教育推進事業の取組

中原町立中原小学校 校長 平田英次

中原小学校では、昨年度から県立中原養護学校との交流を通して、温かい心をもった子どもの育成を目指す研究を取組、実践を重ねている。

本校は、エイズ教育（性教育）推進地域に指定を受け、その研究推進校として家庭・地域・関係機関と連携を取りながら教育活動を展開している。推進地域事業の趣旨を生かし、学校の教育活動全体を通じ、4つの専門部に全職員を配置し、次のような目標で研究を進めている。

- ①道徳教育部会（エイズ教育を心の面から支える）
- ②学級活動部会（エイズ疾病概念、感染経路、予防を正しく理解させる）
- ③教科指導部会（エイズに関連のある領域や単元で、エイズ教育を支える）
- ④調査広報部会（アンケート・新聞等で地域・保護者への広報を図る）

この研究を通して、エイズに関するだけでなく、「心の教育」、「生きる力の養成」につながることを望んでいる。



デイベート学習「エイズは公表すべきだ」



中原養護学校の体育大会に参加

教育論文

入賞者紹介

平成9年度の教育論文入賞者の表彰が、去る5月15日の第19回佐賀県教育センター研究発表会において行われました。最優秀賞の論文テーマと入賞者の紹介をします。

【最優秀賞】

わたしと出会い、わたしらしく生きる子どもに



鹿島市立北鹿島小学校
橋口和人

進んで情報を活用し、意欲的に活動する児童を育てる理科学習指導の研究



佐賀市立本庄小学校
今泉 弘

【優秀賞】

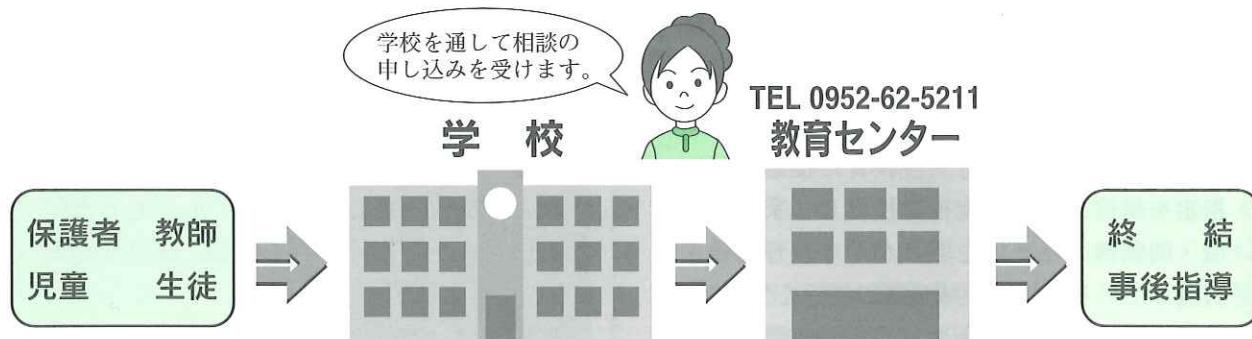
- 福富町立福富小学校 川崎 香織
- 佐賀市立本庄小学校 原口 弘之
- 唐津市立大良小学校 原口 豪
- 伊万里市立黒川小学校 松野 博文
- 佐賀市立城西中学校 塩田 洋己
- 佐賀市立鍋島中学校 御厨 淳子
- 佐賀市立城東中学校 桑原 玄二
- 佐賀県立小城高等学校 西村 緑

【努力賞】

- 玄海町立有浦中学校 甲斐信太郎
- 嬉野町立轟小学校 杉浦久美子

お気軽に ご相談ください

教育センターでは、幼児・児童・生徒の健やかな心身の発達と成長を図るために様々な指導・相談活動を行っています。また同時に、保護者の先生方に対して適切な助言や援助を行っています。



個人面談

個人面接室で、本人や保護者との個別カウンセリングを行います。

遊戯療法

卓球、トランポリン、ゲーム、ミニバスケットボール、砂遊び等の遊びを通してかかわります。

集団面接

リラックスした雰囲気で家族面接や受理面接などを行います。

箱庭療法

遊びの一環として箱庭つくりを通しての表現を楽しめます。

○相談の内容は?

- ・学習に関すること
- ・性格や行動に関すること
- ・障害のある子の就学に関するこ
- ・進路や適性に関すること
- ・身体に関すること
- ・諸検査による資料提供に関するこ

○相談日は?

- ・原則として
毎週月・水・金曜日
- ・相談時間
9:30~16:00

○電話による相談日は?

- TEL 0952-62-5211
- ・毎週月~金曜日
 - ・相談時間
8:30~17:00

ご存知ですか

所報タイトル「ミネルバ」とは、ローマ神話における知恵と勇気の女神でありギリシャ神話のアテナと同一視されています。私達教師が、知恵と勇気を駆使して研修を深めていくことを期して、この女神になぞらえました。

編集・発行 佐賀県教育センター

〒840-0214 佐賀県佐賀郡大和町大字川上字西山

TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

ホームページ <http://www.saga-ed.go.jp/>